

## <GTEC>通信

# アウトプットをゴールとするインプット活動を積み重ね、 生徒の英語による思考力・表現力を高める指導

## 岡山県立岡山芳泉高等学校

1974（昭和49）年設立。建学の精神として「気宇広大」を掲げる。2002年度、単位制・2学期制の進学重視型単位制高校となった。2014年度から、全校を挙げて協働学習を軸とした授業改革に着手。探究的な活動や課題研究の充実に取り組み、そのスキルとして国際バカロレアの「知の理論（Theory of Knowledge）」の一部を取り入れた指導改善を推進している。生徒の自主性を尊重した部活動や生徒会活動、ボランティア活動なども活発に行われている。

基本情報：公立、共学、普通科・単位制

規模：1学年320名

主な進路状況：国公立大は東京大1名、京都大1名、大阪大5名、神戸大8名、岡山大59名、広島大9名はじめ256名（2018年度入試・既卒含む）



## 取り組みのポイント

- 授業中、インプットした知識・技能を生徒が活用できるよう、スピーキングやライティングを始めとするアウトプット活動をこまめに行う。
- 論理的なライティングスキルの育成に力を入れるべく、実力テストなどで分量の多い自由英作文を出題。
- 予習を課さず授業で初見の英文を読ませ、その場で考える練習を積み重ねる。定期考査でも初見の英文を読む力を評価する。

## 取り組みの背景

岡山県立岡山芳泉高等学校では、英語による思考力や表現力を、今後の社会で必要とされる「汎用的な基礎力」として位置づけ、その育成を目指した指導改善を推進している。

以前は、1・2年次においては語彙や文法事項のインプットを指導の中心に置き、3年次から既習内容を組み合わせたアウトプットの指導を本格化させていた。従来の大学入試に対しては、そうした指導が生徒の希望進路の実現につながっていたが、2020年度からの新入試に対しては、新たな指導が求められると考える教師が少なくなかった。英語科主任の田野雅人先生は、次のように語る。

「大学入学共通テストにおける英語（筆記〔リーディング〕）の試行調査（プレテスト）では、

センター試験以上に大量の英文から筆者の主張や段落の要旨を短時間でつかむ読み方が重視されており、単語や熟語、構文の暗記に頼ったボトムアップ重視の指導ではいよいよ対応が難しくなってきました。文法・語彙の知識は文脈の中での理解を尋ねられており、また「GTEC」等の外部検定試験ではスピーキング・ライティングが課されることもあって、ばらばらの知識を闇雲に覚えさせるやり方には限界があります。そうした変化を考えると、インプットが完成した時点でアウトプットという手順では非効率的です。検定の実施時期は従来のセンター試験より早くなることから、低学年次から両方を並行して伸ばす指導を研究する必要があると考えました」

## 初見の英文の大意を音声から把握する指導で、生徒の英語による思考力を鍛える

同校の現1年次における英語の指導を見ていく。

「コミュニケーション英語Ⅰ」（3単位）では、教科書の2つのセクション（4ページ約300語の英文）に2時間を充てる。両時間ともに、ペアワークをはじめとする生徒同士のコミュニケーション活動を積極的に取り入れている（資料1）。

1時間目は、音声から教科書の英文の大意を理解することを重視する。1年英語科の平松昌浩先生は、初見の英文と向き合えるよう生徒には予習をしてこないように伝えている、と話す。

「事前に辞書を引いて単語の意味を調べたり、和訳をしたりすると、生徒は英語を日本語に置き換えて考えてしまいます。それでは、英語で考える訓練にはなりません。また、英文を速く、正確に読むポイントは、まず全体の趣旨を把握することにあります。そのため、辞書を引き、一文ずつ理解しながら読み進めるという学習は、この授業の目的には沿わないと考えています」（平松先生）

中心的に用いる教材の1つが、英文中の重要語句を指示に従って抜き書きする「Phrase Hunt」（資料2）のプリントだ。語句を本文から探し、何度も練習することでコロケーションの定着を図っている。授業の基本的な進め方は、次のようになる。

- ①CDで英文を聞き、大まかな内容把握のQ&Aを行う。
- ②英文を見て、「Phrase Hunt」に書かれた表現を、指定された語数で抜き出す。
- ③抜き出した表現の発音練習を行う。
- ④ペアで英語→日本語及び日本語→英語の確認を、時間を区切りスピーディーに行う。
- ⑤英文の内容理解を深めるため、発展的なQ&Aを行う。答えが複数考えられる問いを含め、ペアで根拠を明らかにしながら対話的に学ぶ機会を作る。

授業後は自宅で、「Phrase Hunt」の表現を練習するとともに教科書準拠の「予習ノート」に取り組み、文法・語法や文の構造を整理してくるよう指導している。

2時間目は、理解した英文をアウトプットする活動を中心に行う。冒頭で予習ノートの答え合わせをし、Read & LookupやShadowingといった音読活動にペアで取り組んだ後、本文の内容を自分の言葉で表現するReproductionを行う。この活動では「Phrase Hunt」で身につけた表現を用い、間を自分の表現でつなぎながら、本文の内容を表す英文をペアに1分間で話す。最初は教科書そのままの形で言おうとするため、時間内に内容を全部網羅することは困難だが、3～4回練習を繰り返し、聞き手のアドバイスを参考にすることで自ら表現を工夫するようになる。最後に英文を書くときには、ほぼ全員が教科書の半分～3割の量で英文で要約ができるようになっている。

「1時間に1セクションずつ進むやり方では、生徒が全体を捉える読み方になかなかならず、前時の内容を復習する機会も十分持てませんでした。アウトプットを前提とすることで、要約に必要な箇所を意識しながらインプットを行うなど学習の質も改善され、2時間目に行う内容が復習になり定着の効果が期待できます。また生徒にとっては、自分の言葉で英語を話しているという実感が持っており、即興でのスピーキング活動にも積極的に取り組んでいます」（田野先生）

## 論理的なライティングスキルの育成に向け、実力テストで自由英作文を出題

コミュニケーション英語Ⅰの各レッスンの終わりには、英語による話し合い、プレゼンテーション、ライティングなどを行う時間を設けている。たとえばエネルギー資源について学んだレッスンでは、協働学習に取り組んだ。まず、グループごとに、太陽光、風力、水力、天然ガスの中からテーマとするエネルギー資源をグループに1つずつ割り当て、その長所と短所をグループ全員が英語で発表できるように練習をした。その後異なるエネルギー資源を担当したメンバー4人で班を再編成し、互いの発表をメモを取りながら聞き、グループの意見をまとめた（資料3）。振り返りの活動として、ルーブリックによる自己評価を行い、アドバイスや自分の発表内容を書き留め、次回に生かすこととした。

「以前の本校では、ライティングの指導は、国公立大学の個別学力検査の対策として位置づけられており、センター試験後に本格化していました。しかし、文章を論理的に構成し書くスキルは、一朝一夕には身につけません。低学年次からライティングの指導に力を入れる必要があると考えました」（田野先生）

そこで、年3回の実力テストでも、200点満点中40点の配点で自由英作文を出題することにした。6月の第1回実力テストでは、「今まで訪れた中で印象に残っている場所」というテーマを設定し、20分間の制限時間で取り組ませた（資料4）。

「生徒は自由英作文に取り組む中で、『どう書いたらよいか分からない』『うまく書けない』と悔しさを感じることもあると思いますが、本校では生徒のそうした気持ちを大切にしています。実力不足を実感すれば、生徒はライティングの課題の解消に意欲的になるでしょう。「Phrase Hunt」や単語集で覚えた表現を使ったり、ペアワークでのアドバイスを生かして質の高い英語を書く経験を積み重ねれば、インプットに対する意識がさらに向上すると思います」（田野先生）

「書く」に重点を置いた指導は、国語などの他教科・科目でも行われている。今後は、他教科・科目との連携も強めていく考えだ。

## 取り組みの詳細

「次期学習指導要領では、知識をただ身につけるだけではなく、それを活用することがより重視されています。そのため、数学や理科、地理歴史・公民等の学習内容を英語で扱うなど、教科を横断した取り組みも充実させていければと考えています」（田野先生）

### 実用性の高い重要な文法事項を精選し、徹底した問題演習で定着を図る

「英語表現Ⅰ」では、重要な文法事項の定着を図る。以前は、教科書の内容を網羅的に授業で取り上げていたこともあり、学習内容を身につけさせるための問題演習を行う時間が確保できていなかった。そこで、指導改善に着手するにあたり、教師は、授業で中心的に取り上げる内容として、スピーキングやライティングに欠かせない文法事項を教科書から精選して授業時間に余裕を設け、問題演習を充実させることにした。

「文法の学習は重要ですが、その目的は、あくまでも実用に生かすことにあります。助動詞やto+動詞の原形の副詞用法、It goes without saying～などの慣用表現は慣習的に教えているが、実際の場合、少なくとも生徒のアウトプットの水準では使用頻度の低いものが含まれており、それよりは習慣的行為の現在形を始めとする、高い頻度で使われる内容を重視すべきだと考えました」（田野先生）

定期考査の内容も改めた。教科書の内容をそのまま出題しては、教科書または日本語訳の暗記で対応できてしまう問題があるため、生徒にとって初見の英文や文脈を意識して出題することにした。「授業では初見の英文を読むための力をつけることを目標にしています。定期考査でもその力が評価できるよう、話題や構造が教科書と近い初見の英文を出題しています」（平松先生）

### 指導で伸ばしたい英語力の推移を正確に把握できるよう、4技能「GTEC」に変更

指導改善に着手するにあたり、アセスメントについても検討した。

同校が受験してきた模擬試験では、1つの問題にテストポイントが複数あったり、1つの大問に複数の種類の力を問う問題があるため、授業改善の資料とすることは難しく、指導の成果を測定するためには、標準化されたテストを受験することが必要と考えており、「GTEC」を3技能で受験していたが、授業中に即興的に話す機会を多く設けたことから、スピーキングテストも新たに導入した。

## 取り組みの成果と今後に向けて

「アセスメントは生徒の学力推移を把握するとともに、指導の成果を測る指標です。力を入れている指導が実を結んでいるかどうか、課題があるとなれば何か見極める必要があります。特にスピーキングのデータは本校に蓄積がなく、状況を正確に把握する必要があると考え、全学年で4技能検定へ移行しました」（田野先生）

一連の指導改善の成果は、生徒の姿に表れている。授業中、生き生きと英語を話し、積極的にクラスメートとコミュニケーションを図る生徒が目立つようになった。

「スピーキングの流暢さは着実に定着していると感じます。4技能全体の定量的な成果は、9月に受検する「GTEC」の結果から判断したいと考えています」（田野先生）

現在、生徒のライティングには文法的な正確さや語彙の質に課題も見られるため、今後はアウトプットの質を高める指導を取り入れていく。

「今後英文が高度化するに従って、従来型の予習を課す必要が生じたり、場合によっては精読的アプローチも必要になってくると思います。実際に授業では辞書指導など、自立した学習者になるための活動も同時に行っています。基本としてはfluencyに重きを置きながら、足りない部分を補って、従来の資産を活用しながら新テスト1年生のカリキュラムを調整していきたいと考えています」（田野先生）



（左から田野先生、平松先生）

45期 コミュニケーション英語Ⅰ

●基本方針（身につけさせたい能力）

- ・初見の英文を読み、概要を把握することができる。→ 本文の予習は課さない。家庭学習は復習ベースで。
- ・4技能入試に向け、Speaking まで含めた発信力の育成 → Activity を軸に置く授業。

●ラウンドシステムの導入（1時間に1パートではなく、まとまった量の文章を繰り返し読む。）

例) Lesson 1 の場合

- 1時間目 Part 1 & Part 2 ①
- 2時間目 Part 1 & Part 2 ②
- 3時間目 Part 3 & Part 4 ①
- 4時間目 Part 3 & Part 4 ②
- 5時間目 章末問題
- 6時間目 Show & Tell (人物紹介)

【①の授業】予習なし（シス単テスト or 前時の暗唱テスト?）

1. 本文を1度読み、全体像の把握 Q&A
2. **Phrase Hunt** 日本語をヒントに本文から英語を抜き出す。
3. 発音指導
4. **Quick Response**
5. 英問英答 Q&A（語彙の推測、辞書指導を兼ねる。）

【②の授業】予習ノートを解いてくる。

1. 予習ノートの答え合わせ
2. 訳の確認、質問
3. 音読
4. **Reproduction**
5. 本文の感想まで言えたら理想

- ・毎時間の取り組み・・・1 minute talk (授業のはじめに。語数を記録。)
- ・レッスンの最初、予習のない時間でシスタンテスト
- ・章末問題をどう扱うか。

# 【資料2】授業プリント(Phrase Hunt)

Lesson 5 Methane Hydrate

## 【1】

Have you ever heard of methane hydrate? It looks like ice and consists of methane and water. It is often called "burning ice." If you touch a lighted match to it, it will start burning. Only water is left.

As early as the 1930s, natural-gas workers in Siberia knew about a similar gas hydrate. They complained that something like ice was clogging the pipelines. They wondered how it formed.

Some years later, scientists began to do research on this problem. In the 1960s they discovered natural methane hydrate in the natural-gas fields in Siberia. This meant the gas hydrate could be a new source of energy. But the problem was where to find large amounts of it.

According to one theory, the remains of plankton that lived in the ocean long ago sank down to the ocean floor and slowly changed to methane. The cold temperature and high pressure caused the methane to become covered in ice. So scientists expected that methane hydrate would lie in polar areas and below the ocean floor.

Since then scientists have discovered methane hydrate \*deposits in many areas. They now believe there are huge deposits of methane hydrate in the world.

Scientists are also excited about methane hydrate for another reason. It could be a source of cleaner energy. When methane hydrate burns, it produces less greenhouse gases, such as carbon dioxide, than other fossil fuels do.

Countries began to search for large reserves of methane hydrate. In the mid-1990s Japan became one of the countries that took the lead in methane hydrate research. It is the world's biggest importer of natural gas. Methane hydrate could largely replace oil and natural gas.

Fortunately, it turned out that methane hydrate is present in large amounts off the coast of Japan. For example, the deposits off the coast of Shizuoka to Wakayama may equal 11 years' worth of gas imports to Japan. A report says that the total amount of methane hydrate near Japan could meet our gas demand for 100 years.

\*deposit: 鉱床。地中に形成された天然資源の層や塊のこと。

## Phrase Hunt Lesson 5 Part 1 & 2

		J to E	E to J	ランダム
1	氷のように見える (3)			
2	メタンと水でできている (5)			
3	パイプラインに詰まる (3)		clog the pipeline	
4	新しいエネルギー源 (5)			
5	大量の～ (3)			
6	プランクトンの残骸 (4)		the remains of plankton	
7	海底に沈む (6)			
8	氷に覆われた状態になる (4)		become covered in ice	
9	極地域にある (4)			
10	温室効果ガスの発生が少ない (4)		produce less greenhouse gases	
11	ほかの化石燃料 (3)			
12	～の探査を始める (4)			
13	世界最大の輸入国 (4)			
14	石油や天然ガスの代わりになる (5)		replace oil and natural gas	
15	大量に存在している (4)			
16	日本の海岸の沖に (5)			
17	ガスの需要を満たす (4)			

## Lesson 5 【1】 Q&A

(改訂版)

### 【リスニング】

- When and where was natural methane hydrate discovered?
- Which country is the world's biggest importer of natural gas?

### 【内容理解】

- What will you find after methane hydrate has finished burning?  
Only water.
- In the beginning of 1930s, what was a problem for natural-gas workers in Siberia?  
Something like ice was clogging the pipelines.
- From what methane hydrate is made?  
It is made from the remains of plankton.
- To produce methane hydrate, what conditions are needed?  
The cold temperature and high pressure are needed.
- Why can we say that methane hydrate could be a source of cleaner energy?  
Because it produces less greenhouse gases.
- Why is it important for Japan to search for methane hydrate?  
Because Japan imports a large amount of natural gas.

**【資料3】 授業プリント(プレゼンテーション、ライティング)**

英語 I Lesson 5 Project さまざまなエネルギー源 プレゼンテーション

自分の担当するエネルギーについて1分間で紹介しよう。メリットとデメリットを最低1つは言うこと。

発表メモを聞き取りメモ

<p><b>Solar Energy</b></p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染しな</li> <li>・エネルギー源が豊富にある。</li> </ul> <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期費用が高い</li> <li>・天候に左右される。</li> </ul>	<p><b>Wind Energy</b></p> <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手ごねな価格</li> </ul> <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・bad gas と排出しな</li> <li>・広範囲の土地が必要</li> </ul>
<p><b>Hydropower</b></p> <p>Good point</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2 排出しな</li> <li>・手軽である</li> </ul> <p>Bad</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作る費用が高い</li> <li>・ダム</li> </ul> <p>不足 少ない水だと発電できない</p>	<p><b>Natural Gas</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中にたくさんある</li> <li>・74-76%</li> <li>・CO2 排出しな</li> </ul> <p>豊富</p> <p>輸送コストが高い</p>

advantage

good point

bad point

内容・課題	使用表現	デリバリー
A	・語りは(ほぼ)なく、書きたいことがよくわかる。	・聴衆の目を見ている。
5	・相手の理解が難しい単語は繰り返し書いている。	・その場で適切な英語を考える。
B	・間違えや分かりづらい箇所がいくつかある。	・相手とやりとりを保つ。
8	・書きたいことが大体分かる。	・速やかな声量で話している。
C	・話の展開が十分でない、あるいは情報量が少なすぎる。	・原稿から目を見ずに相手を見る。
1	・接続や単語の使い方が不自然で、意味が分からない文章が多い。	・書いた文をそのまま言うことにごまかっている。
(A)・(B)・(C)	(A)・(B)・(C)	(A)・(B)・(C)

15 / 15

●次回への改善点

I will talk about "Solar Energy", one of Clean energy. A Good point is Non-polluting, it means don't emit carbon dioxide. Furthermore, it has a plentiful supply of a source of energy, because it use a solar power. It exist forever. But, if we buy the Solar panel, it is very expensive. It is hard for poor people to install, and dependent on Sunny weather. If it cloudy or rainy, it don't generate electricity.

class( ) no.( ) name ( )

英語 I Lesson 3 Project ある人物の経歴紹介

Lesson 3 の東大プロジェクトは人物紹介です。ある人物について、「○○年に△△(場所)で生まれた」「○○年に□□をして、××という功績を残した」など、経歴を簡単に紹介します。

発表の準備として、自分が発表したい人物を選び、簡潔な経歴を調べ以下に記入してください。出来事はなるべく多く調べ、最低でも4つの出来事は書くこと。

紹介する人物: 3人 17 (村岡 明成)

年号	経歴 (必要に応じて場所や日付などもメモしておくこと)
1994	生年 兵庫県 加古川
2011	「3人17人」として活動を開始
2012	NHK 林全国音楽放送コンテスト 創作テレビドラマ 傑作 (Arc Pair) 監督・脚本
2014	自身初の映画映画監督 ← director
2017	YouTube? "PAO PAO Channel" 立ち上げ ← start
2017	
2018	"笑ガンス"の動画で590万再生!! ← 1000万再生

「事前に書いてきた英語を読む」活動ではなく、「調べたことを(その場で、即興的に)英語で話す」ことが、この活動の目的です。上の表はメモ程度にとどめておき、あまり詳しい英語を作らないこと。

内容・課題	使用表現	デリバリー
A	・語りは(ほぼ)なく、書きたいことがよくわかる。	・聴衆の目を見ている。
5	・相手の理解が難しい単語は繰り返し書いている。	・その場で適切な英語を考える。
B	・間違えや分かりづらい箇所がいくつかある。	・相手とやりとりを保つ。
8	・書きたいことが大体分かる。	・速やかな声量で話している。
C	・話の展開が論理的でない、あるいは情報量が少なすぎる。	・原稿から目を見ずに相手を見る。
1	・接続や単語の使い方が不自然で、意味が分からない文章が多い。	・書いた文をそのまま言うことにごまかっている。
(A)・(B)・(C)	(A)・(B)・(C)	(A)・(B)・(C)

11 / 15

●次回への改善点

1人17人の経歴をつかいて紹介。

I will introduce "Bunka". But, Bunka's truth name is "Takizusa Tomoya". He was born in Higashi-Awazishin in 1944. He started "Bunka" in 2011. He directed a small movie for the first time in 2014. He started "PAO PAO Channel" in YouTube with @Agaki. They became a YouTuber. They dance very well because they are making a movie about dance. They danced "Rai dance" in 2017. They are very well, so the movie is seen 590 million. Also they have danced another. For example, "Amisuri tantaritan", "Akaboranashi", "Putter Saida", "Doraeman", "PAO PAO channel" etc. they are dancing many. So I respect them.

class( ) no.( ) name ( )

## 実力テストの出題について

45期からは3年次に受ける試験が変わることは連絡していると思いますが、それに合わせて第1回実力テストも以下のように出題内容を変更します。ねらいと対策をよく読んで「実力を付けて」テストに臨んで下さい。

	●出題内容 ○ねらい	対策・アドバイス
第1問 読解1 20分 30点	●目的に合わせて読む力を問う問題 ○普通の文章の他に時刻表、メニューなどの図表、電子メール、対話文など日常的な題材を用いて、必要な情報を手早く探したり、全体の趣旨を問う問題を 出題します。	出題例は5 / 2.5配布の週末課題のとおりです。効率よく探すためのコツをつかんでおきましょう。問いに合わせた読みをすることが大切です。知らない単語も覚えておきましょう。
第2問 読解2 20分 40点	●400語程度の論説文を読む力を問う問題 ○標準的な語彙レベル（英検準2級程度）の文章を用いて、内容を理解する力、理解した内容を日本語、英語で表現する力を問います。	・読む時間が短いので、フレーズ単位で早く理解することが大切です。ワードハントやシス単を使って日→英、英→日をスピーディーに言えるように練習しましょう。また、戻り読みをせずに一回読んで内容を大体把握できるように、既習の文を使って練習しましょう。
第3問 読解3 20分 40点	●400語程度の論説文を読む力を問う問題 ○標準～やや難の語彙レベル（英検準2級～2級程度）の文章を用いて、内容を理解する力、理解した内容を日本語、英語で表現する力を問います。	・週末課題で字数指定のある記述問題の練習をしましょう。
第4問 リスニング 20分 30点	●A短い対話文 Bやや長い文 C200語程度の物語を聞く力を問う問題。 ○やや易（英検3級程度）～標準（英検準2級程度）の対話、日常的な題材（第1問と同じ）を用いて、内容を理解する力を問います。	・読んでわからない文は聞いてもわかりません。まずは読解の力をつけることが大事です。その上でスピードを意識しましょう。 ・英語の音に慣れるにはシス単や教科書のCDを使って音読しましょう。
第5問 ライティング 30分 60点	●A和文英訳 日本語の内容を英語で表現する問題(20点)、B自由英作文(40点) テーマに沿ってまとまった量の英文を書かせる問題。 ○A語句や文構造、文法事項などを理解し、適切に活用することが出来るかどうか、B論理展開や表現の方法を工夫しながら伝えているかどうかを問います。	・英語表現で既習の文法事項を復習しよう。（時制、助動詞） ・問題演習で出てきた語句を実際に使えるように、自分で例文を作りながら覚えよう。